

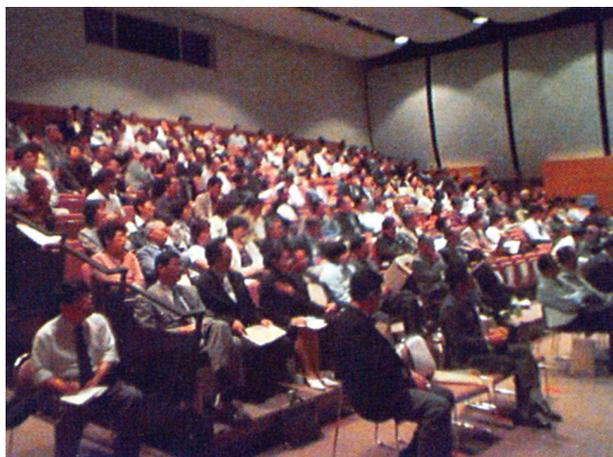
「小松・加賀水郷構想」と「小松・加賀水郷再生協議会の活動」の紹介

小松・加賀水郷再生協議会 会長 北谷 清種
事務局 元谷 修

1. はじめに

小松・加賀水郷再生協議会発足の前進である「加賀の水郷再生を考える会」は平成16年10月19日「第1回考える会」を開催し、「みんなで憩える加賀の水郷」を目指すことを目的にワーキングを重ね骨格の「環境・教育テーマ」「舟運・観光テーマ」「景観・歴史文化のテーマ」の大きな3本柱を立てて活動を行って来ました。

平成17年5月28日「加賀の国の水郷再生について」と題しシンポジウムを開催し、著名人を招きパネルディスカッションを行い、3グループの活動報告を各グループリーダーが報告を行い、その後グループの活動として「乗船体験会」「水質浄化」「動植物の保護」「自然、まちなみ共に現状を維持」などの活発な活動を行い、小松・加賀水郷再生協議会発足に向けて準備を行ってまいりました。



シンポジウム会場風景

平成18年2月10日小松、加賀両市の観光、まちづくり、環境保護関係など36団体が参加して組織し、加賀三湖地域の水郷文化と豊かな水辺環境を、住民・企業・行政が協働して、創意工夫を最大限生かすうる空間として活用し、国内外からの来訪者にも誇りうる「みんなで憩（いこ）える加賀の水郷」にふさわ

しい空間を創造することを目的として「小松・加賀水郷再生協議会」が発足しました。

2. 水郷構想の発想の原点

過去に何があり、それは現在どうなっているのか。また、未来にどんな可能性を秘めているのか。物事をなす場合、このように常に時間軸に沿って考え、将来の可能性を探ります。

水郷は、まさにこの考えの対象であり、市の将来都市像のテーマである「水と森のふるさと」を象徴するものであります。

3. 水郷構想の目的と範囲と概要

水郷構想は「水・緑といで湯の親水回廊計画」を主として水郷構想の目指す3本柱を軸に整備方針を立てています。

- (1) 自然の再生
- (2) 歴史・生活文化の再生
- (3) 観光の再生

目的は、柴山潟から木場潟及び北潟湖を干拓承水路や河川を介して結び、水・緑と「いで湯」の回廊を創出することにより、白山及び加賀海岸と一体となった田園景観や水生植物の観察等を通じて豊かな自然と触れ合う親水空間を整備する。

水郷再生構想対象エリアは、小松空港から加賀三湖の旧今江潟・木場潟・柴山潟と北潟を河川と承水路などで結ぶ河川で、白山、加賀越前海岸と溶け合う「美しい加賀の国」の原風景を創りだすエリアです。エリアの中には、1000年以上の歴史を持つ日本を代表する5つの古湯の片山津、山代、山中、粟津、芦原温泉があり、多くの観光客が訪れております。



4. 水郷再生協議会の主な部会活動

環境・教育部会は、自然の再生である、自然再生の中で「自然環境の再生」と「地球温暖化防止」に取り組んでいる。潟の自然を取り戻すために不法投棄や風によって上流より流れ着いた「ゴミ」を地域住民による潟周辺の清掃活動を行い潟周辺が綺麗になった場所に小学生、地域住民が水質浄化に作用する「ヨシ」などの苗を植栽し水質浄化を図る活動などを行っている。



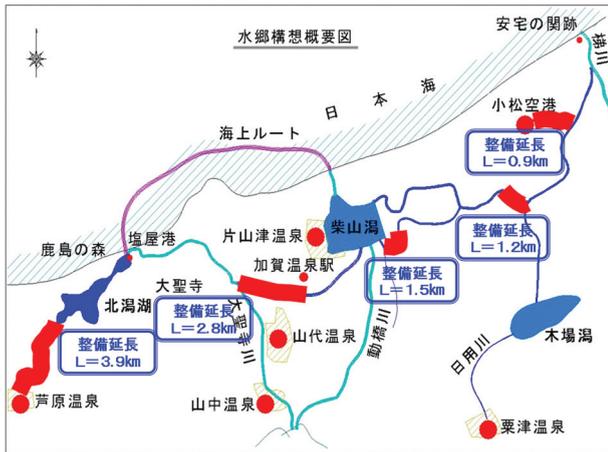
地域住民による柴山潟の清掃作業



木場潟にて「葦」を植える小学生達

整備概要は、

- ・田園景観を遊覧する為の、干拓承水路、河川水路の改修整備。
- ・豊かな自然との触れ合いと学びの場なる自然拠点公園。
- ・各所における河畔林景観と水生植物の出会いの空間。
- ・昔懐かしい水運空間の再現。



主な河川・水路改修ヶ所

【水郷構想の歴史的な背景には、中世～近世にかけて900年余り前、平安時代に加賀の守となった「藤原為房」が任を終えて京に帰るとき国府（小松）から梯川を下り今江潟、柴山潟、大聖寺川、九頭竜川を経て帰京した記述が「為房卿記」にある。】

歴史・景観部会は、加賀三湖を含む水郷の文化的景観を選定し保護する活動。また、水郷に関する登録有形民俗文化財（漁具や漁業に関する文献）を選定して保護を図り後世に伝えていく活動。加賀三湖を含む水郷の集落の歴史、民俗、信仰、伝承の資料の収集活動など行っている。

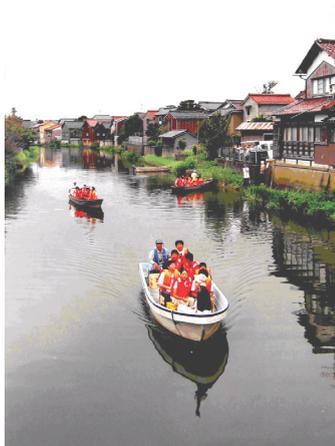
観光部会は、小松市串町地内（柴山潟干拓承水路）及び小松市今江町地内（昔の風情を残した前川）で、温泉を訪れた旅行者及び住民を対象に毎年乗船体験会を行っている。

運航の実施中、旅行者など県内外の人とヒアリング、アンケートを行い舟運としての「観光」と結び付くか試行錯誤を行っている。



自然にふれあう柴山潟干拓承水路乗船体験会風景

また、昔の町並みを残した前川の乗船会場では船上で「俳句」を詠むイベントなどを行い乗船者から大変好評を得ました。



昔の風情を残した前川乗船体験会風景

5. アジア・太平洋 水サミットの参加

「発展と生態系のための水」に関連する国内優良事例とそのアジア・太平洋地域への展開可能性について話題提供を行うとともに、アジア・太平洋地域の水問題、その解決方法について意見交換を行う趣旨で平成19年12月4日大分県別府に於いて、「第1回アジア・太平洋 水サミット」が「水インフラと人材育成」「災害管理」「生態系と発展のための水」の三つのテーマで、韓国を含め47ヶ国と地域から、アジア・太平洋諸国の首脳、水関係者の代表で開催されました。

分科会で「加賀越前水郷構想」の中から水問題についての事例をこの水サミットで提言して欲しいと加賀市長に要請がありました。「水郷構想の事例報告」の中で協議会の活動が紹介されると言うことで小松・加賀水郷再生協議会からも水サミットに参加



分科会事例報告後の総括討議風景

しました。

事例報告打合せ後、加賀市長、韓国の著名人と環境問題はもとより、加賀市の中谷宇吉郎「雪の科学館」と韓国の化粧品会社との友好話や韓国と「小松⇄韓国」就航便の増便など観光に関する意見交換が行われた。

協議会が目指す3本柱と一致した清溪川復元事業は、復元を通じてソウルの文化遺跡と連携して観光資源化することによって600年の古都ソウルの歴史性と文化性が回復された話など自然が息づく清溪川について幅広い意見交換を行った。

6. 韓国河川協会視察団のお出迎え

昨年開催された「第1回アジア・太平洋水サミット」で小松・加賀水郷再生協議会役員と韓国の河川協会会長、財界人、大学教授の方々と有意義な意見交換が行われ、それをきっかけに「韓国河川協会」の視察団の訪日を実現しました。

協議会が活動している場所で毎年乗船体験会を実施している小松市今江町内に今も残っている昔の風情ある歴史的建造物を和舟でゆっくり観賞できる「前川」を推薦したところ平成20年6月4日～8日の滞在日程の内初日に41名の河川協会の視察団が今江町に来て頂きました。

昭和25年に当主が近在の銘木と石材を集めて造られた建造物は、窓から川面に写る月を釣るという意味で奥家の釣月亭（きんげつてい）と命名され、そ



前川から眺める奥家の釣月亭

の奥家の庭園を挟んで奥に「吸漚庵」という茶室でお茶を点てた当時の暮らしぶりの説明を行った。

今江町の舟運の町並みは、川沿いの家と家の間には必ず「河道」（水辺に降りるスロープや階段）があり、舟が係留され、ここで荷の積み卸しが行われたほか、野菜の洗い場としても利用していた昔の生活には欠かせない「河道」と説明を行った。

また、昭和初期に建造された地井家の作業場では石積みの壁にアーチ型の門を取り付け、船を横付けにできる作業の利便を考えた当時では近代的な建物と説明を行った。



昭和初期に建造された地井家の作業場



左に見える「奥家の釣月亭」の説明を受ける視察団



木場潟「水と緑のふれあいパーク」記念撮影

7. 韓国河川協会視察風景



協議会の大井貞夫副会長が天候が良ければ「霊峰白山」が眺めるポイントで今江町のまち並みの説明を行っている様子



8. おわりに

今回、韓国河川協会の視察団をお迎えできたことは、昨年暮れに別府市で開催されたアジア・太平洋水サミットに於いて韓国河川協会の金國一会長と交流できたことが縁です。

金会長を団長とした視察団の方々には、我が協議会の目的である、環境に配慮した地域活性化の舟運構想について、前川や木場潟を案内し、「小学生による葦の移植や一般市民参加のクリーン作戦（清掃活動）など」についてお話したところ、環境問題に対して市民参加が進んでいること又、次世代を担う子供たちに興味を持たせる活動に対して、金会長は「韓国でも参考に実践したい」と話され意義ある交流であった。

《小松・加賀水郷再生協議会》

石川県加賀市片山津温泉7-1-1

片山津地区会館内

TEL 0761-74-0350 FAX 0761-74-0841